



題字 中36回 野見山 晁治

嘉穂



進

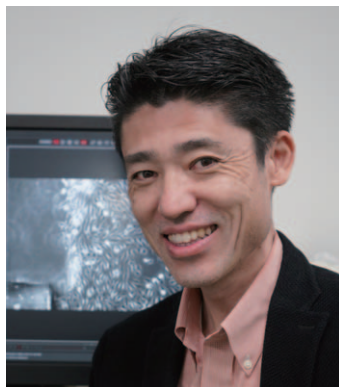
嘉



第七十三回 嘉中・嘉穂高等学校
関東地区同窓会総会

令和5年11月25日(土)17時30分より
ホテルグランドヒル市ヶ谷 3階 瑠璃の間
高校42回卒当番

第73回 嘉中・嘉穂高等学校 関東地区同窓会総会によせて



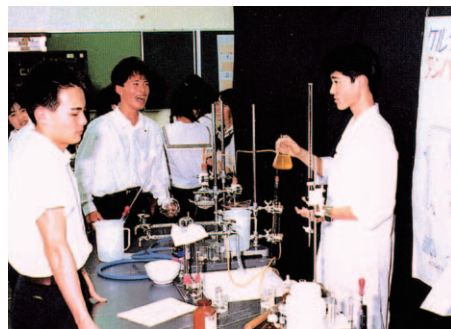
実行委員長
秋光 信佳(高42回)

はじめに

令和5年度(第73回) 嘉中・嘉穂高等学校関東地区同窓会 総会・懇親会の実行委員長を拝命する高校42回卒業生の秋光信佳と申します。私は八木山の麓に生まれ育ち、鎮西中学校から嘉穂高等学校に進学しました。応援指導に始まる嘉穂高文化に入學早々度肝を抜かれたことを今でも鮮明に覚えています。あれから30年以上の歳月を経て、母校と同期・同窓生の皆様と再び縁を結ぶ機会を頂戴し、とても嬉しく思っています。

テーマは進嘉(しんか)

高校42回卒業生の共通テーマは進嘉(しんか)です。このテーマには、進化を続ける母校に対して「進め嘉穂！」とエールを送る気持ちが込め



られています。ご存じの方も多くは思いますが、進化とは生物進化に由来する言葉です。この生物進化では、世代ごとに生じるわずかな遺伝子の変化(突然変異といいます)が蓄積して段々と生物の性質が変化し、そのときどきの環境に適応したものが生き残って子孫を増やしてゆく(自然選択といいます)ことで、長い時間をかけて新しい「種」に成った生物が登場します。また、生物の歴史では、新しい環境への進出が生物進化を爆発的に推し進めることも知られています。

ここで、この関東地区で活動する同窓生のことを考えますと、母なる大地・筑豊から生存競争の厳しい関東に果敢に進出し、幾多の困難を乗り越えてきた強者揃いと言えます(もちろん、故郷や他の地域で活躍される同窓生全員に当てはまることではございません)。関東地区の同窓生そのものが、まさに進化の体現と言えるのではないのでしょうか?このように考えると、「進嘉(しんか)」というテーマは関東地区同窓生そのものを表現していると言えます。さらに、「進め嘉穂!」とは、母校へのエールのみならず、これからも前進する私たち自身に対するエールでもあるのです。以上の想いを込めて、今年の関東地区同窓会のテーマを「進嘉(しんか)」と決めました。

原点に立ち返って

今回の実行委員長を拝命するにあたって、関東地区同窓会の会則を改めて読み直しました。そこには、「本会は会員相互の親睦を図ると共に、母校及び郷土の発展に貢献することを目指す(第2条(目的))」と

高らかに謳われており、この考えこそが同窓会の原点であると深く感銘を受けました。そこで、今年の同窓会では、母校及び郷土の発展に貢献することも意識した会にしたいと考えています。具体的には、演奏家として歩みを始めたばかりの関東在住の同窓生による演奏を企画しました。同窓生の温かい声援のもとで演奏を経験することで、新人演奏家が大きく羽ばたく励みにしたいと思っております(もちろん、迫力ある生演奏を皆様に楽しんでいただけます)。また、懐かしい故郷を思い出しつつ応援できる企画も用意しています。他にも皆様に喜んで頂ける企画を考えております。

嘉穂高等学校の卒業生である誇りを胸に、関東地区同窓会をより一層盛り上げるために関係者一同が全力を尽くして準備を進め、皆様を心よりお待ち申し上げております。万障お繰り合わせの上、是非ともご参加いただきますようお願い申し上げます。



各位

令和5年9月吉日

嘉中・嘉穂高等学校関東地区同窓会 総会・懇親会実行委員会
令和5年度実行委員長 秋光 信佳 (高42回)

令和5年度 (第73回) 嘉中・嘉穂高等学校関東地区同窓会のご案内

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、春の会報でご案内いたしました通り、令和5年度の同窓会総会・懇親会は、高校42回卒業生が担当いたします。皆様に喜んで頂けますよう当番回期一同、鋭意準備を進めております。皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。下記、開催概要をご確認の上、ご参加くださいます様お願いいたします。

なお、出欠登録については、「Web出欠登録フォーム」と「返信用はがき」の2つの方法をご用意いたしました。いずれかの方法でご登録くださいます様お願いいたします。

※既に「Web出欠登録フォーム」で登録を完了された方は、「返信用はがき」のご提出は必要ありません。

敬具

記

- 日時 令和5年11月25日(土)
受付： 17時00分～
総会： 17時30分～18時00分
懇親会： 18時00分～20時00分
- 場所 ホテルグランドヒル市ヶ谷 3階 瑠璃の間
住所：〒162-0845 東京都新宿区市ヶ谷本村町4-1 / 電話：03-3268-0111 (代表)
- 会費 ①高校67回生以上 10,000円 ②高校68回生以下 5,000円 ③学生 無料
- 出欠登録 ①返信用はがきで登録：10月9日(月)必着で、同封のはがきをご投函ください
②Web出欠登録フォームで登録：10月9日(月)まで登録可能です (延長いたしました)
※ 「Web出欠登録フォーム」で登録を完了された方は、「返信用はがき」のご提出は必要ありません。
※ 「Web出欠登録フォーム」にも住所変更欄や通信欄があります。ぜひご活用ください。



*登録いただくメールアドレス等の情報は、関東地区同窓会事務局にも共有させていただきますことをご了承ください。

*会場側より人数制限の要請があれば、調整させていただきます場合があります。

実行委員会連絡先 kaho42kai@gmail.com *諸事情による変更もあり得ますので、最新情報は関東地区同窓会のホームページでご確認ください。

【交通のご案内】

- JR、東京メトロ、都営新宿線の市ヶ谷駅から徒歩3分
- JR総武線でお越しの方は新宿よりの階段を上った改札口をご利用ください。
- 都営新宿線でお越しの方は4番出口をご利用ください。
- 東京メトロ有楽町線、南北線でお越しの方は7番または6番出口をご利用ください。



野見山暁治先輩を偲んで

『ボタ山のTシャツ』『カホ、かほ、嘉穂、KAHO』

高31回 大園 建(稲築東)

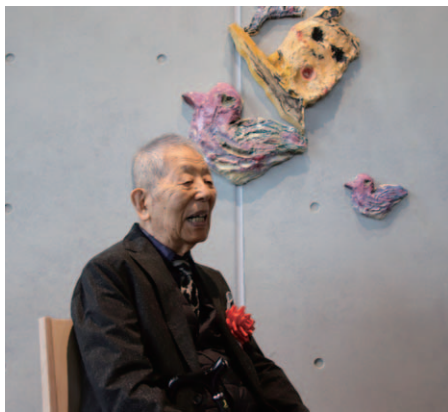
「大園君、嘉穂の大先輩で洋画家の野見山暁治先生ち知っちゃよう？私、大ファンだよ」

13年前の4月、関東地区同窓会当番の準備で打ち合わせした時の事でした。恥ずかしながら、僕はこの偉大な大先輩のご尊名をこの時に初めて知りました。

僕にそう言ったY子ちゃんには、同窓会の記念品の担当をお願いしていました。

彼女はどうしても先生の絵を記念品に使いたいと思っていたのですが、本人はもとより同期の誰も面識がありません。

意を決して先生に手紙を出すと言うので、記念品担当のもう一人の女子がサポートして、失礼のないよう

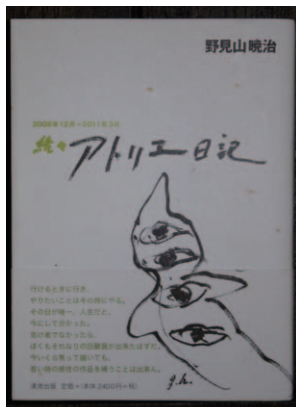


野見山暁治先生(飯塚市提供)

に何度も何度も見直しながら二人がかりで手紙をしたためてくれました。

暫くして先生から「僕は何をしたらいいと？」とご返事を頂いたので、ご自宅にお伺いして話を聞いて頂きました。

その時の事は先生の自著『続々アトリエ日記』に「見栄えしないよ、僕の絵。それでも先輩センパイとおだてられると、くすぐったくなつて引き受けた。」と記されています。



続々アトリエ日記

先生からTシャツにしてはどうかとご提案を頂いたのですが、高名な先生の絵をTシャツにするには色々ハードルが高く一時は断念しました。

それでもY子ちゃんのTシャツへ想いは潰えることが無く、涙ながらに訴える彼女の想いに絆されて再度みんなで検討することにしたのです。限られた僅かな予算で下手な物を作ったら、先生に大変なご迷惑をお

掛けすると不安視する声も飛び交う中、制作過程で必要な写真撮影には、東映のプロデューサーがプロのカメラマンを派遣する、Tシャツ製造はアパレルメーカー勤務の男子が全て任せると言ってくれて、あれよあれよとTシャツ企画が成立してしまつたのでした。

Tシャツ制作過程の事も『続々アトリエ日記』の中で先生は触れられています。

「かつての炭鉱地帯、ヘンテツもないボタ山の絵だ。それでも喜んでくれる。」

「カホ、かほ、嘉穂、KAHO」と文字がこぼれるように入れたが、これも月並みだな。」



ボタ山のTシャツ

読み返す度に母校や後輩たちを思う先生のお人柄が偲ばれます。

こうして先生の故郷や母校や後輩たちへの想いと、Y子ちゃんの先生への想いが詰まったボタ山のTシャツを、10月1日に約450名の皆さんにお渡しする事ができたのでした。

3年後にY子ちゃんは病に倒れて帰らぬ人となってしまいました。彼女の先生愛は我々31回生、特に女

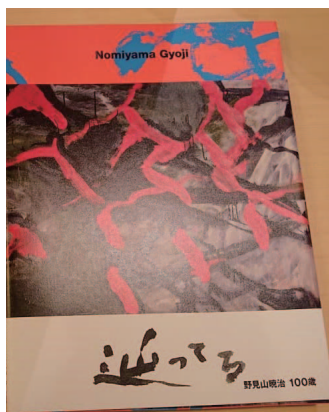


箱根でボタ山のTシャツを着て

子の間で広がって今も脈々と受け継がれています。

先生は画学生の頃に沖繩を訪れてすっかり虜になって、戦争が始まらなければ将来沖繩で絵を教えることを望まれていたと、先日テレビで拝聴しました。奇しくも今、僕は沖繩(石垣島)で暮らしており、画学生時代の先生に想いを馳せながらこの原稿を書いていきます。先生の想い出を辿るべく、100歳記念展示会の画集をパラパラと捲ってみました。

きつと「僕の絵は、あんたが見ても分からんよ」と笑っておられるのでしようね。隣では「大園君、私にはね、分かるだよ」とY子ちゃんが微笑んでいそうです。



100歳記念展示会画集



【令和5年度 新人歓迎会】



6月10日土曜日、17時より六本木・竹茂（高26回卒・竹之内久美子さんのお店）にて、第12回新人歓迎会を開催いたしました。また今回は、関東地区同窓会柔道部OB会を前身とする「淬礪会」も同時開催となり、田中会長、田中副会長、中村副会長をはじめ、約30名の先輩方が盛大に新入生を歓迎してくださいました。

じつは、この新人歓迎会。始まりは2010年になりませんが、その第1回開催のときに初めて新入生を迎え入れてくださった高24回卒の3名の先輩方が、奇しくも今回、淬礪会としてご同席いただき、新人歓迎会を温かく見守ってくださいていることに、関東地区同窓会の絆の深さを感じ、とても感動いたしました。

新人参加者の皆さんで

すが、今春に高校を卒業した大学1年生が8名参加。昨年初めて参加した学生5名が2年連続して参加してくれました。また、2018年の時に新入生として参加した方が、時を経て新社会人となり、また再び参加を希望して集ってきってくれるという嬉しい出来事もありました。最終的に、新人参加者17名の過去最高結集となり、青年部イベントの恒例行事として学生さんの中にも定着しつつあると実感しました。

新人の自己紹介のとき、将来の夢



や希望を語る若き後輩たちの姿に触れ、聞いているこちらが元気をもらっているような感覚になったのは、一人だけではないと思います。

歓迎会も大変盛り上がりを見せた20時ごろ、昨年とは違い今年はマスクなしで、愛する母校の校歌を全員で大合唱し、みな満面の笑みで記念写真に収まりました。新入生からは「久しぶりに高校の先輩や仲間たちと会い、筑豊弁で話すことができ、心が温かくなりました！」との喜びの声に、新人歓迎会の意義を噛みしめた次第です。

青年部長高40回 日高伸次（二瀬中）

「参加者の声」

先輩方、先日はお忙しいところ新人歓迎会を開催していただき、ありがとうございます。東京外国語大学言語文化学部一年の二場桃香と申します。この春上京し、関東地区同窓会に入会させていただくことになりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

現在、私は将来フランス語学を専門とする大学教授になるため、フラ

ンス語の勉強に勤しんでおります。英語・日本語とは異なる、フランス語独特の発音や文法は非常に興味深く、授業を受けることが毎日の楽しみです。また、入学してから様々な国の人々と関わる機会が増え、自分の視野が広がっているのを感じています。

その一方で、上京してからというもの、「標準語」で話す機会が多く、周囲に同郷出身者もいないため、どこか寂しい気持ちがありました。しかし、先日の歓迎会では、筑豊弁が飛び交い、同郷出身の先輩方・仲間たちと福岡の料理を囲み、まるで地元に戻ったような温かさを感じました。先輩方にも優しく声をかけていただき、大変うれしく感じました。これからもご期待に沿えるよう、より一層精進してまいります。改めて、私たち新人を温かく迎えてくださり、本当にありがとうございます。

高75回 二場 桃香
（嘉穂高等学校附属中）



お・元・気・で・す・か・？

昭和の東京オリンピックの年に嘉穂高校に入学したわれわれ19回生も後期高齢者と呼ばれるようになりました。私も関東地区同窓会理事会の出席者の中で、最古参から3番目と聞かされ、愕然とした思いにかられたところでした。

とはいえ、高度成長を謳歌したかと思えばバブル崩壊で痛めつけられてきた19回生はしたたか、歳を重ねるほどに行動力を増し、今年春には皆で東京・千鳥ヶ淵で花見を楽しみました。

その一方で、早くに逝ってしまった同期生、いまだ難病と闘っている同期生がいるのも避けることができない現実です。こうした友への思いを胸に、与えられた時を過ごしていきたいと思っています。



今春の東京・千鳥ヶ淵での花見会

高19回 福岡 幸（飯塚一中）

憧れの山頂へ

これまで2,000m級の山は経験して来たが、今回意を決して3,000m級に初チャレンジ、そこで憧れていた国内3番目の高さを誇る奥穂高岳へ、上高地から横沢、涸沢經由のルートで頂きを目指す2泊3日の山旅でした。

初日上高地に着いたのは5時50分頃、土砂降りの雨で身も心も挫けそうな状態で上高地バスターミナルをスタート、明神に到着する頃に段々と晴れ間が出て来て心も踊って来たが、徳沢く横尾く本谷橋を過ぎた辺りで又雲行きが怪しくなり初日の最終目的地涸沢小屋に着く頃には、土砂降りの雨。

2日目の朝は、涸沢小屋情報によると今シーズン最高な天候になるとのこと、早朝4時30分頃よりテラスで夜明けを待った。

何と感動のモルゲンロード現れラッキー、その後涸沢から延々と続く登山道、ザイテングラードの岩稜帯を鎖場や鉄梯子で進みいよいよ奥穂高岳の頂きに、国内最難関ルートと言われる西穂高岳へ続く尾根に聳えるジャンダルム、これ又一度はチャレンジしたい槍ヶ岳など3,000m級の山々が連なる雄大な景観を満喫することが出来た2日目でした。

最終日は雨模様曇り空、涸沢から横尾を過ぎた辺りで又もや土砂降りの雨、びしょ濡れになりながら上

高地へ、温泉に浸かって3日間の汗を洗い流し、最後の締めは、名物山賊焼で乾杯。
兎に角持久勝負の辛い3日間でしたが、疲れを忘れて病み付きになりそうな感激!!の山旅でした。



高24回 吉川 茂夫（飯塚一中）

福岡の同級生

8月初旬法事で帰福しコロナで会えなかった同級生と久振りに会うことが出来ました。

福岡の古賀康宏君が同じクラスだった友人や小学校から一緒だった友それにかぐや姫の皆さんにも声をかけていただいて幼少のころから高校の青春時代にまで話が弾みあつという間に時間が過ぎました。

14回生3年の時母校は還暦で体育祭では9クラスが明治以来の通学服の変遷を披露しました。私の組は戦後の服装が担当で当時霜降りの学生服だった小倉高校の生徒会にお願いし50人分の制服を貸していただきました。

傘寿の年になりましたが心はいつも穂波河原に還ります。

高14回 今川 達功（二瀬中）

同期会の終活

我々の同期会はコロナ禍で非開催となるまでの30年あまり、正に「動」の活動をしてきた。

海外旅行5回、国内旅行20回（忘れてしまうほど）、他地区の同期生も誘い20名近くで楽しんできた。ただ80歳を過ぎると健康維持が難しくなり、関東支部の9回生約40名でも最近はず報が続いた。誠に残念で仕方がない。

これからは「静」の同期会への移行も考えていきたい。実際に集まることができなくてもお互いの情報を伝え合う場とすれば、最後の二人になるまで開催できるだろう。

高9回 平田 淳一（飯塚一中）

○年ひとむかし



と言いますが、2度目の上京から10年を迎えました。1度目の上京は社会人7年目の春。東京都内を営業で回るために選んだのは荻窪でした。駅の南側、歩いて10分くらいだったかな？近くに大家さん（たしか作曲家という肩書だった）が住んでいて、毎月駐車場代を払いに行く度、長い話を聞かされたのを今でも思い出します。先日バイクで行ってみたら、今は小学校になってました。

内勤になった2度目の上京。オフィスにアクセスのよい大井町は、下町っぽくも繁華街へのアクセスが良い街でしたが、訳あって現在の蒲田へ転居、今に至ります。転居後にコロナ禍になり、電車通勤も控えるようになり、近所をさんぽする毎日となりましたが、多摩川はじめ自然も（呑み屋も）多く、これも良い街です。あとどれくらい東京（関東？）に居ることになるのやら…。ま、楽しく過ごしています。

高39回 岡田 敬一郎（穂波西）

高29回の梶山です。8年前に広島から転勤し、現在東京で単身赴任生活を送っています。ゼネコンの開発部門に所属し、再開発を担当してい



ます。現在、東京の再開発の動きは凄まじく、八重洲、品川駅周辺、渋谷駅、新宿駅、池袋駅等、10年後、20年後の東京の姿がどうなっているのか楽しみに思っています。

私生活の方では、最後の勤務地として東京に居る間に何かやりたいと思いついたのが食べ歩き。それも東京で一番うまい店を制覇するというものです。雑誌やネットでジャンル別にランキングを調べ、1位の店を食べ回るといいます。

これを達成するにはクリアしなくてはならないものが3つあります。まず第1に金が掛かる（やりたいことには金が掛かるといって切り切りが必要）。第2に健康でないとできない（我々の年代、結構これが一番ハードルが高いかも）。第3にわざわざ電車に乗って並んでも食うという強い心が必要（これもきついが、達成感は一ひとしお）。

食べ物の話は、男女年齢を問わず誰でも興味があるので、コミュニケーションツールとして使えます（特に客先との雑談にはもってこい）。今まで達成したのは、パン、そば、ピザ、餃子、カレー、チャーハン、とんかつ、ハンバーグで、これから挑戦するのがラーメン、鰻、焼き鳥、天ぷら、焼肉、寿司等です。コロナで一旦中断そろそろ始動再開です。多分こんなことやっている人いないと思います。が、お付き合いされたい方、だれでも歓迎ですよ！

高29回 梶山 剛（飯塚一中）

『還暦を迎えて』

高34回 森田直彦（直方三中）

—もう還暦？—

還暦、そんな歳になったのかな。実感のない中にいます。還暦といえ、子供のころのイメージで、定年退職してゆったり隠居生活をしているものだと思っていました。縁側でゆつくりお茶を飲み、碁でも指している、そんなイメージです。

—同期それぞれの還暦—

近年、同期と会えば、会社が変わったり、単身赴任だったり、生活も仕事も変化を聞くことが多くなりました。ある同期はこの機に起業するとい、ある同期は今までの経験を出版するとい、ある同期は子会社に行つて仕事が面白くないと嘆き、それぞれの節目があり、新たな人生を切り開いていく、そんな時期にいるのだと実感しています。

また、新たな趣味をはじめた人、趣味や活動を生きがいに行っている人もいます。ある同期は、コンサートを自分で企画して開催するというパワフルな活動をしている人もいます。年々、コンサート企画もショーパフォーマンズも成長し続け、盛り上がっていくのに驚きます。今年の還暦コンサート？も、素晴らしい！楽しい！素敵な時間でした。コンサートには関東同窓会の方々も多く来られていました。もちろん私たちは、終わってからはプチ同期会となり、大いに盛り上がりました。今や、還

暦は長寿のお祝いではなく、第二の人生のスタートを迎えての激励会といつてもよいのではないのでしょうか。

—同窓会（皆さま）に感謝—

45歳の本校同窓会、それに向けて高校卒業以来会っていなかった同期と再会し、50歳で関東同窓会の当番を行い、いつの間にか新しいコミュニティが自分たちの生活の中に出てきました。関東同窓会の中では、まだまだ若造です。むしろ、その感覚を楽しんできたと思います。先輩方の元氣な姿に触れ、これからの自分たちの在り方や生き方を考える良い機会でもありました。ありがたいなと思います。

私にとって関東同窓会は初心に帰る場所、若造扱いされて、まだまだこれからだと思ふ場所です。私にとって、同期は共に人生を旅する仲間たちです。還暦は新たな門出です。これまで多くのご指導を頂いた先輩方と一緒に還暦を迎えた同期、そしてこれから還暦を迎える後輩の皆さん、この場を借りて感謝を述べさせていただきます。素晴らしい時間を、ありがとうございます。まだまだ還暦を迎えたいばかりの若造です。これからもご指導の程、よろしくお願ひします。





関東地区同窓会会長就任のご挨拶

ご報告

関東地区同窓会会員の皆様、高26 回 田中寛利です。

昨年2022年11月25日の嘉中・嘉穂高等学校関東地区同窓会の理事会に於いて、会長を拝命致しましたが、就任後、少々時間が経過しましたが、ここに報告させていただきます。

ここに至る経緯ですが、故原信義前会長が2020年11月24日に逝去されました。その間、会長職が空白の期間がありましたが、昨年の同窓会総会当日の理事会で副会長から会長に就任しました。

同窓会はこうありたいと思う姿を求めて

会長就任の同窓会当日の総会懇親会でも話をしたのですが、ここに改めて「同窓会はこうありたいと思う姿」をお伝えしたいと思います。



① 同窓会は楽しいことが大前提。同窓生に会うのが楽しみで参加する。このような状態を継続したいと思えます。

② 永続的に続く同窓会であること。伝統ある関東地区同窓会が、永続的に続くための課題に取り組んでいきたいと考えています。

現在の状況から見えてくる課題

① 将来的に、複数の回期が協力する当番制や、一度やった当番期がもう一度といったことがありうるかもしれません。

② 28年後、100回記念同窓会総会を想像してみます。現在の会員数約1850人、同窓会総会懇親会への参加率は約14%です。28年後、新たに会員となる若い会員の方を含めて予測すると、会員数約520人、100回記念大会の参加者は72人、来賓等を入れても100人弱。

これでは、寂しいですね。伝統ある関東地区同窓会が永続的に活気ある姿で続くように、取組んで行きます。

今回、課題をお知らせする形で挨拶の終わりにさせていただきます。

高26回 田中寛利(桂川中)

心より御冥福をお祈り申し上げます

訃報

高橋光信さん(高3回)	1998年9月	小野山清之さん(高9回)	2022年6月16日
岩吉也さん(高12回)	2019年4月25日	近藤昭さん(高5回)	2022年7月18日
春陽一さん(中43回)	2019年8月2日	高柳三智子さん(高8回)	2022年8月12日
梶原弘和さん(高22回)	2021年	高藤和子さん(高10回)	2022年9月
鈴木木和子さん(高5回)	2021年8月	山本映二さん(高9回)	2022年9月4日
高井治士さん(高13回)	2021年11月	梅澤道春さん(中47・高1回)	2022年11月29日
田村克規さん(高12回)	2021年11月20日	野崎敦子さん(高6回)	2023年3月19日
高田洋誠さん(中45・中46回)	2021年12月11日	竹中滋男さん(高12回)	2023年4月
田橋洋二さん(高6回)	2021年12月17日	服部興子さん(高9回)	2023年5月25日
高藤共一さん(併中2回)	2022年1月11日	吉村哲也さん(高3回)	2023年6月22日
田中一郎さん(高4回)	2022年2月	浅原満徳さん(高9回)	2023年7月21日
末吉英敏さん(高21回)	2022年4月25日		不明
藤原敏美さん(高28回)	2022年5月4日		不明
	2022年5月18日		

編集後記

この夏は久しぶりに各地で花火大会が催され、私も千葉の花火を楽しみました。飯塚の花火大会はどうかな？と検索すると、便利な時代になったものでYouTubeに高画質な動画がいくつも上がっています。さっそく視聴。関東出身の家族によれば、飯塚の花火の激しさはまるで怪獣を攻撃しているように見えるとか。確かに「たーまーやー」などと長閑に声をあげる隙がないほど絶え間なく打ち上がる花火は圧倒的です。こんなところにも地域性はあるんですね。いつかまた飯塚の花火を生で見たいものです。

さて今回の会報にも幅広い世代から寄稿いただきました。ご協力に心から感謝申し上げます。いただいた原稿を読むと、この会報が世代を超えた情報交換の大切な場であることを改めて実感します。微力ではありますが、この場の継続のお手伝いをできればと思っています。

(YK)

関東地区同窓会事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-4-11
パレドール九段下1F
株式会社 嘉穂 内
嘉中・嘉穂高等学校関東地区同窓会 宛
TEL. 080-6206-6474 卒業回期とお名前を伝言メモに録音ください。折り返しのご連絡となります。
メール kaho.kanto.alumni@gmail.com
http://www.kahokanto.net/kwp/

・嘉中・嘉穂高等学校関東地区同窓会事務局は、現在物理的な拠点を持たずに運営を行っております。住所変更、退会希望、その他のご連絡は、基本的にはメールをご利用いただけますようお願い申し上げます。

幹事会・事務局

会長 田中 寛利(高26)
副会長 田中 達也(高27) 中村 真一(高29)
幹事長 中西 佳子(高31)
副幹事長 川口 雅史(高33) 江上 朋広(高37)
幹事 森田 直彦(高34) 桑原美喜子(高35) 宮本 敏則(高36)
中村 英男(高37) 小鶴 浩之(高38) 佐藤 憲一(高38)
菱田 幸子(高38) 栗原 義之(高39) 平田 雅浩(高39)
村田美也子(高40) 森山 聡美(高40) 森木 真理子(高40)
下元 紳志(高41)
監事 大園 建(高31) 有田 真紀(高35)
事務局長 塚本 哲(高27)
青年部長 日高 伸次(高40)
HP委員長 河村 俊子(高38)

嘉穂高校同窓会本部

〒820-0021 福岡県飯塚市潤野8番12号
TEL. 0948-22-0231 https://kaho.ed.jp/